

そのうち、参考資料が多いのは、江崎グリコです。

同社ホームページによれば、牡蠣の煮汁にグリコーゲンが含まれることを確認した創業者・江崎利一が、1921(大正10)年、栄養菓子「グリコ」を発売。合名会社江崎商店を設立し、大阪西区に堀江工場を設置しました。1927(昭和2)年には、オマケを創案して評判となり、1931(昭和6)年に、大阪市西淀川の現在地に大阪工場を新設しました。

江崎氏は、走る鉄道から工場が良く見えるという広告価値に注目し、この歌島の地に工場を新設したといえます。

「江崎グリコホームページ」 <https://www.glico.com/jp/>


『大阪人(OSAKA-JIN) 2007年12月 西淀川萌え』大阪市都市工学情報センター 2007 *

『創意工夫：江崎グリコ70年史』江崎グリコ株式会社編 江崎グリコ 1992 *

西淀川地域史：上記以外の基本資料

『大阪史蹟辞典』三善貞司編 清文堂出版 1986

*

『My Town西淀川：水・緑未来に翔ばたく愛ランド』西淀川区役所総務課 1993 * 

西淀川区ホームページ 名所・旧跡、碑・歌碑、伝記・伝説

(簡潔に要点がまとめられています。)

<https://www.city.osaka.lg.jp/nishiyodogawa/category/3248-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

『西成郡史 全』西成郡役所編 名著出版 1972 *


『摂津名所図会大成 其之2』暁鐘成著 松川半山画 柳原書店 1976 *

『大阪府神社史資料 上巻』大阪府編 大阪府神社庁 1986

*

この調べかたガイドでは、西淀川区の歴史をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

西淀川図書館に所蔵しているものは、書誌事項の後に*をつけて表示しています。(*の無いものも所蔵館から取り寄せできます。)

小学生から読めるものは書誌事項の後にオムリンマーク  をつけています。

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。

図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。

より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド：各区版

西淀川区の調べかた

西淀川区の民俗・文化——夜宮女祭——

近代化の影——外島保養院——

地域の再生——西淀川公害訴訟——

西淀川区の人物・企業——江崎グリコ——



大阪市立西淀川図書館

〒555-8501 大阪市西淀川区御幣島1丁目2番10号

TEL 06-6474-7900

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間 火～金曜日(第3木曜日は休館)

10:00～19:00

土・日曜日、祝・休日、

10:00～17:00

休館日 ●月曜日、第3木曜日(祝・休日は開館)

●年末年始 ●蔵書点検期間

西淀川区の調べかた

Ver.4 2026.3 改訂

民俗・文化 —一夜官女祭—

西淀川区野里の住吉神社では、江戸時代から一夜官女祭が毎年2月20日に行われています(大阪府指定文化財)。当矢といわれる当番の家に7人の少女と父母が集まり、親子別れの杯を交わした後、祭儀を行います。

祭りのいわれとして、洪水への人身御供伝説と、岩見重太郎がヒビを退治した話とが結び付けられた社伝が伝わっており、司馬遼太郎の小説『一夜官女』にもなっています。淀川沿いの水害の多い土地柄から、災害消除を祈願したのであろうと思われる。

『大阪春秋 90』記載の2論文には神事の流れや神饌が写真付きで紹介されており、祭りの雰囲気を知ることができます。

『西淀川区史』大阪都市協会編集 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会 1996 *

『野里誌』池永悦治著 山治弥生会 1989 *

『祭礼行事 -都道府県別-[27]大阪府』高橋秀雄編 桜楓社 1993 *

「一夜官女祭とその周辺」澤井浩一、「一夜官女祭」池永悦治
『大阪春秋 90号 西淀川』大阪春秋社 1998) *

近代化の影 —外島保養院—

「外島保養院」は、ハンセン病療養所として、1909(明治42)年4月1日に大阪府知事の管理により、大阪府西成郡川北村(現在の西淀川区中島)の神崎川河口に収容人員300名で開院されました。その後、増床を図り、府内の丘陵地を買収しましたが、地元民の反対により移転出来ず、現在地での増床を余儀なくされました。ところが、1934(昭和9)年9月21日に襲来した「室戸台風」により外島保養院は壊滅し、入所者173名、職員3名、職員家族11名、計187名もの尊い命が亡くなりました。保養院の復興は、大阪府及びその周辺で復興地が見つからず、1935(昭和10)年8月になって、「岡山県邑久郡裳掛村(現在の邑久町)大字虫明長島」に1936(昭和11)年4月から再建工事が開始され、1946(昭和21)年、「国立療養所邑久光明園」に改称されました。

『いのち萌えて：外島保養院で夢を追った人々』中村勲 2002 *

『新修大阪市史 7巻』新修大阪市史編集委員会/編 大阪市 1994 *

地域の再生 —西淀川公害訴訟—

発電所、大工場、幹線道路の集中する西淀川区は、高度経済成長期以降、大気汚染が激甚で、それに伴い、気管支喘息、慢性気管支炎等に苦しむ患者が多発し、「公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法」の認定患者が5600名を越えるまでになりました。

この認定患者・家族で組織された「西淀川公害患者と家族の会」を母体とする原告(726名)が、発電所や工場を持つ関西電力、住友金属、大阪ガスなどの企業10社と、国道や高速道路を管理する国・阪神高速道路公団を相手に、損害賠償と汚染物質の排出差止めを求めて、1978(昭和53)年4月以降に提訴した一連の裁判を西淀川公害訴訟といいます。

その結果、1991(平成3)年3月の一次訴訟判決で、被告企業10社の共同責任を認め、さらに、1995(平成7)年には、初めて自動車による排ガスの健康影響と国の責任を認めた二～四次訴訟判決が下りました。

この判決に基づき、1995(平成7)年3月に被告企業10社と和解、さらに、1998(平成10)年7月には、国・阪神高速道路公団と和解し全面解決に至りました。

企業との和解金の一部は、公害により破壊された地域の再生のため「財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)」設立基金とされ、また、国・公団との和解に当たっては、道路沿線の環境改善や「西淀川地区沿道に関する連絡会」設置などを約束し、原告は損害賠償金を放棄しました。

『公害・環境問題史を学ぶ人のために』小田康徳編 世界思想社 2008

『青い空の記憶』新島洋著 教育史料出版会 2000 *

『西淀川区史』大阪都市協会編 西淀川区制七十周年記念事業実行委員会 1996 *

『新修大阪市史 9巻』新修大阪市史編集委員会/編 大阪市 1995 *

「あおぞら財団ホームページ」<http://www.aozora.or.jp/>



大野川緑陰道路(西淀川区ホームページより転載)

企業・人物 —江崎グリコ—

西淀川区は我が国有数の工場地帯で、事業所を構えている企業が多く、有名企業の本社としても、江崎グリコ(株)、シノブフーズ(株)、スモカ歯磨(株)、(株)ダイフク、福島工業(株)、ロックペイント(株)などがあります。